

# 菊陽人 りさーち



やまぐち かい  
**山口 開さん (8歳)**  
[辛川]

- 趣味 プラモデル作り
- 将来の夢 動物園の飼育員
- 自慢 プラモデル作りが得意
- 今一番やりたいこと サッカー遊び

「菊陽人りさーち」に掲載を希望される人は、はがきに「氏名」「年齢」「住所」「連絡先(昼間)」を明記のうえ〒869-1192菊陽町役場総合政策課「菊陽人りさーち」係までお送りください。  
注)掲載対象は、小学生以上で菊陽町に居住している人に限ります。親子、祖父母と孫など2人1組での掲載もできます。掲載が決まりましたら、こちらからご連絡させていただきます。



くわずみ ゆうり  
**桑住 優里さん (8歳)**  
[曲手]

- 趣味 本を読む
- 将来の夢 お花屋さん
- 自慢 鉄棒
- 今一番やりたいこと かくれんぼ

# ゆたかな心をはぐくむ 人権のひろば

子どもの目、子どもの声  
人権  
作文シリーズ  
【No.37】

問い合わせ  
人権教育・啓発課  
☎232-2113

\*作者の学年は作文がつづられた昨年度の在籍学年です。  
\*◇印からの文章は先生のコメントです。

## それぞれに生まれた故郷が

「三月三日の風」に学んだこと  
武蔵ヶ丘中学校2年1組 藤山 友希

これまで部落差別について何度も学習してきたけれど、話で聞くだけではあまりイメージがでないことがいくつかありました。しかし、「三月三日の風」というビデオを見て当時のことがよりリアルに感じ取ることができました。ビデオの中には、「部落出身だろう」と言っている子も生まれたり、被差別部落出身の生徒に厳しくする教師など、差別しているシーンもありました。また、結婚して子どもも生まれたのに、被差別部落出身だと知ると、離婚し、追い出すという場面もありました。私はそういった場面を見て、大人が差別をするから子どもも差別を覚え、大人になってからも差別し続ける。また、その子どもたちも差別をして・・・ということが続いたから部落差別が無くならなかったのではないかと思いました。

西光万吉さんは、いろいろな困難を乗り越えて水平社宣言をつくりました。海外に渡ろうとしてできなくなった時に、「どこへ逃げてでも差別はある」という言葉がとても心に残りました。

差別を広めることは簡単でも、差別を終わらせ、無くすことは難しいことだと思えました。それほど差別は人を苦しめ



▲沖縄での平和学習

る恐ろしいものだと感じました。水平社の運動をみて、「周りを変えないなら、自分たちから行動しなければならぬ」と感じました。私は、嫌なことがあっても何もせず、ぐちぐち文句ばかり言っているだけでしたが、行動に移していこうとビデオを見て感じました。水平社はどんな行動していいかは全国の被差別部落出身の人たちの心を動かし、少なかったメンバーも何千人もの人たちと一緒に行動するまでにいたったことをとてもすごいと思えました。

差別したり、いじめたりすると差別された人はもちろん傷つくし、差別した人もいやな気持ちが残ると思います。人を傷つけても、良いことは一つもないと言われます。だから、出身地で差別することはおかしいと思います。人はそれぞれに生まれた故郷があつて当たり前です。これから私は、人を傷つけることはしないし、傷つける人がいたらやめるように行動しようと思えました。

◇今回の学習が、藤山さんにとって大きな変わり目になることでしょう。差別を無くす側で生きていこうとする人の輪がどんどん広がれば、部落差別がなくなる日がきつと来るでしょう。

## ちがってもいいんだとおもった

「だれのかな」をべんきょうして  
菊陽西小1年2くみ 山下さとこ



▲仲良くお弁当

わたしは、いままで、じきゆうそうをはしるるとき、一年生のともだちが車いすをおしてもらうてはじっているの、いいなあとおもっていました。はしるのきついから、わたしも車いすをおしてもらいたいなあとおもっていました。でも、「だれのかな」をべんきょうして、その子もがんばっているんだとおもいました。じぶんとおもいきかたがちがうけれど、ちがってもいいんだとおもいました。はしるのきつい人もおそい人もいるけれど、みんながんばっているからみんないいんだとおもいました。

◇ちさとさんは、車いすをおしてもらっているお友だちを見て、「いいなあ」とおもっていたんですね。でも、みんなちがっていいんだということがわかったんですね。一人ひとり、かおがちがうように、せいかくも、とくいなことになてなこともみんなちがいます。

## きくよう文芸

### 菊陽句会報

下したてスニーカー汚す春の泥	坂本百合子	また親の傍をはなれぬ仔馬かな	吉野 早苗
梅明り何か忘れてゐるやうな	田中 郁子	春愁の窓に湿りし春の月	井上久美子
肥後椿太き蕊持ち開きをり	井 子文	食膳に季節の香り花菜漬	宮川ユキエ
春泥の靴の並びし集会所	財津 早雪	友の計に如月の星うるみけり	日高 妙子
けふる雨紅を深めるしだれ梅	原野レイ子	趣味の友集ふ古民家春料理	曾我 育代
花種を蒔きし頃なり阿蘇は雨	力 幸子	春の草抜く手に猫のじやれ来たり	曾我トモ子
丁寧に食す高値の春野菜	寺尾千代子	桃の日や二ヶ月嬰の桃の色	紫藤 祥子
春耕や土の匂ひを飛ばしつつ	高橋 孝子	嬰兒のまるまる踵青き踏む	村上 朋子
一瞬のまどろみ誘ふ春日射し	堀川 妙子	着ぶくれて老いの気ままの大欠伸	野口 令史
句作りを悩める先の紅椿	福田 貴子	ちぐはぐな俺の人生花咲かず	松橋 強
春彼岸国旗ずらりと村の道	佐藤 健	合格祈願梅の香ぐり産土に	佐藤 澄世
生きていくことの不思議や梅二月	佐藤 節		

### 短歌会

親と子と笑いて通る街道の桜並木の花は未だし  
茂りたるトマトの芽を摘む手を休め東を向きて黙禱捧ぐ  
つづくもる窓辺によればしらじらと春はまだ来ず窓のつめたき  
夕映えのただ澄む空に又ひとつ輝く星あり昨日に増して  
色とりどりの種類異なる水仙は花咲き初めて楽しき朝々  
勢いて衰えてまた勢いぬ祖母愛でし牡丹庭に角ぐむ  
めらめらと燃ゆる野焼きの煙りたつ阿蘇涅槃像春空に浮く  
コラム読む朝のひと時右手より春の光はやはらかに差す

今村 貞子  
梅田 國雄  
河北 孝一  
菊川あさみ  
下田 久子  
佐藤せい子  
中村トシエ  
山川 カツ